

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

なぜ、古墳は
大きくなければならなかったのか。

提出日 2025 年 8 月 25 日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1 年 3 組 23 番

氏名 福田 怜生

1, きっかけ

私の住んでいる地域には、多数の古墳が存在しています。

歴史を学ぶようになり、その中のひとつ太田天神山古墳が東日本最大級だということを知りました。身近にある古墳が、古墳時代を語る上でとても重要だと知って驚きました。しかし、東日本最大級ということを誇らしく思う一方で、重機などがない時代にムラビトに強いてまで巨大な古墳を造り、死後も権力や富を見せつける必要があったのか、という疑問が湧き上がりました。そこで、「なぜ古墳は大きくなければならなかったのか」というテーマで古墳について調べてみることにしました。

2, テーマの時代を整理する

【古墳が作られていた時代、古墳時代とは】

古墳時代とは、古墳※が盛んに造られた時代で、3世紀後半から7世紀頃を指す。この頃、ヤマト王権が誕生した。（大和地方・現在の奈良県）

ヤマト王権とは、後の大王を中心とする豪族たちの緩やかな連合勢力のことで、豪族の地位はヤマト王権への貢献度合いや関係性によって決定された。

ヤマト王権は大陸から大量の鉄製農具や武具、それに伴う技術や文化を輸入して軍事力を整えた。5世紀から6世紀にかけて氏姓制※の国家組織を整備し、また国造制※によって地方組織の支配を強化した。7世紀以降の律令国家の形成、日本国の成立へととなる下地を作った。

※古墳・・・土を盛り上げて造られたお墓のこと。

地域を治めた有力者や身分の高い人が葬られたとされる。

代表的な古墳の形は、前方後円墳、前方後方墳、帆立貝式古墳、円墳、方墳、八角形墳。

※氏姓制・・・豪族の身分制度。ヤマト王権が豪族を「氏（うじ）」と「姓（かばね）」で秩序づけたもの。

氏は血縁的な同族集団の名称で、姓はその氏の地位や役割を表す称号。

※国造制・・・ヤマト王権が在地首長を「国造」（くにのみやつこ）という地方官に任命して、間接的に支配する制度。

【群馬の地域とヤマト王権】

- ・4世紀頃は毛野国と呼ばれ、現在の群馬県と栃木県南部を合わせた勢力だった。豊かな食糧生産力や馬の生産でヤマト王権に貢献していた。馬は運輸・軍事・農耕の労働力として重要かつ貴重なものだった。
- ・五世紀後半頃に毛野国を上下に分ける形で上毛野国が成立したとみられる。
- ・上毛野国の上毛野氏（豪族）は、5世紀末から6世紀前半にかけて東国統治を担っていた。蝦夷征伐を行っていた。上毛野国と蝦夷の居住地域は隣接していた。

3、調査の方法

①古墳を訪れ、大きさを体感する。

群馬の地域に古墳が造られたとされる期間は4世紀始めから7世紀末。
今回は5世紀頃から6世紀頃の前方後円墳が盛んに造られた時期の古墳を訪れる。

太田天神山古墳→お富士山古墳→保渡田八幡塚古墳→綿貫観音山古墳
(築造時期順)

②資料館の展示や解説、関連書籍、インターネットで調べる。

4、古墳の比較

	太田天神山古墳	お富士山古墳	保渡田八幡塚古墳	綿貫観音山古墳
墳形	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳
棺	長持形石棺	長持形石棺	舟形石棺	棺を用いない埋葬か？
想像される被葬者	毛野国の大首長	ヤマト王権と強い政治的繋がりをもったこの地域の首長	居館（三ツ寺：遺跡）に住んでいた豪族	東国屈指の豪族
墳丘の長さ	210メートル	192メートル	96メートル	97メートル
築造	5世紀前半	5世紀中頃	5世紀後半～6世紀始め	6世紀後半

特徴	・北東と西に陪塚※がある（北東は現存、西は想定とのこと） ・表面は川原石で覆われていたとされる ・有力者層のみに用いられる長持形石棺が発見された	・墳丘は3段 ・築造当時は葦石が施されていた ・有力者層のみに用いられる長持形石棺が発見された	・竪穴式石室 ・前方部を囲うように4つの中島※がある ・埴輪の並びが王が行った儀礼や狩りの場面などを表している	・見事な石組みの横穴式石室 ・玄室（死者を葬る部屋）は県内一 ・盗掘を免れ、財力、軍事力、政治力など権力を示す豪華な副葬品が多数出土した ・「埴輪群像」で儀式など様々な場面を演出 ・葦石はなし
現在の様子	・墳丘全体に木々が生えている ・後円部ギリギリを県道が走っている ・墳丘の上に天神様が祀られている ・埋葬施設が盗掘されている ・キツネノカミソリ（花）の群生地	・墳丘全体に木々が生えている ・前方部は両毛線が通って切断、削り取られて農地になったため、右下部分はない ・墳丘の上に富士神社が祀られている ・長持形石棺（実物）が展示されている	・後円部の上部からの石室が見学可能 ・復元整備がされて、上毛野はにわの里公園内にて見学できる ・全長108mの井出二子山古墳、全長105mの薬師塚古墳の3基からなる古墳群。（保渡田古墳群）	・復元整備がされ、史跡公園となった ・墳丘全体が芝に覆われている ・後円部右側に石室の入口があり、内部の見学が可能
所在地	太田市内ヶ島町	伊勢崎市安堀町	高崎市保渡田町	高崎市綿貫町

※陪塚（陪冢・ばいちょう）

大型の古墳（主墳）に付随して造られた小型の古墳で主墳と同時代に計画的に建設された。主墳に埋葬された首長や有力者の親族、臣下、副葬品などを埋葬・埋納するために造られたと考えられている。

陪塚B（想定）



太田天神山古墳とその陪塚の位置

※中島・・・古墳の周濠（周囲の堀）内に存在する小規模構造物や人工的な島状の遺構を指す。主に祭祀や儀式的場として使用されたと考えられ、陪塚とは異なり、埋葬を主目的としないことが多い。



保渡田八幡塚古墳 中島のひとつ



保渡田八幡塚古墳（全体）

～感想とまとめ1～

古墳時代、群馬の地域は毛野国→上毛野国と呼ばれ、ヤマト王権に多大な貢献をしていたことが分かりました。そのなかでも、東国統治を担い、蝦夷を征伐する重要な役割をしていたことも知りました。また、蝦夷が住む地域に隣接していたため、拠点としても重要な役割をしていました。これらの事柄から、ヤマト王権から認められ、群馬の地域の豪族の繁栄と前方後円墳の築造に繋がっていったと分かりました。

太田天神山古墳が盗掘の被害にあっていて非常に残念に思いました。新田荘歴史資料館を訪れましたが、盗掘に遭わなかった綿貫観音山古墳の出土品と比べるとさみしいものでした。古墳時代の後、飛鳥時代、奈良時代と続きますが、このころは律令制に基づく法令が整備され、墓地の冒涇や盗掘を禁じる規定が存在したようです。罰則も定められていたようです。時が流れ、墓地保護執行が弱まり、戦乱や経済的困窮が顕著になった時代に地方での盗掘が増えた可能性があるようでした。

5. 古墳について

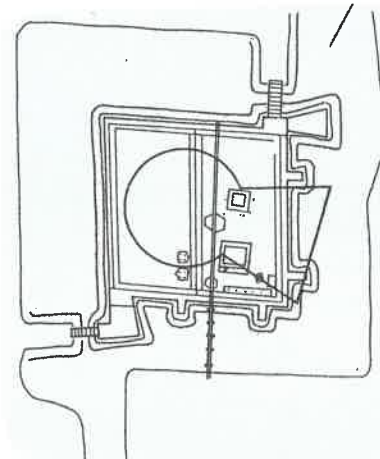
【日本独自に発展】

- ・古墳は中国や朝鮮半島の墳墓文化の影響を受けているが、前方後円墳は日本特有の古墳形態である。埴輪も日本特有の文化要素で古墳の周囲や表面に配置された素焼きの土人形や土器で人物、動物、建物、器物などを模したもの。古墳の祭祀や装飾、死者の魂を守る役割を持っていたと考えられる。



綿貫観音山古墳出土（群馬県立歴史博物館）⇒
神祭りの様子を表しているとされる

- ・古墳はヤマト王権からの築造許可が必要だった。
 - ・王の居館の規模と古墳の規模は対応すると考えられている。
- 例えば、保渡田八幡塚古墳は王の館とされる三ツ寺 i 遺跡もその例外ではない。



三ツ寺 i 遺跡と保渡田八幡塚古墳の大きさ⇒



←三ツ寺 i 遺跡復元模型

【豪族の館復元模型（かみつけの里博物館）】

- ・古墳の形による身分秩序もあり、各々の墳形のなかでの規模の格差は豪族の力の反映であるとみられる。最上位は前方後円墳。前方後円墳はヤマト王権の象徴であり、その分布はヤマト王権の勢力の広がりを示す意図もあったとされる。
- ・古墳に遺体を埋葬する際に使用される棺にも種類によって格式に違いがあった。中でも長持型石棺は王者の石棺と言われ、大王級の古墳でしか見られないものである。

☆東日本では、群馬県内にある太田天神山古墳とお富士山古墳のみに、墳形、石棺ともに最上位が使われている。

太田天神山古墳の前方後円墳

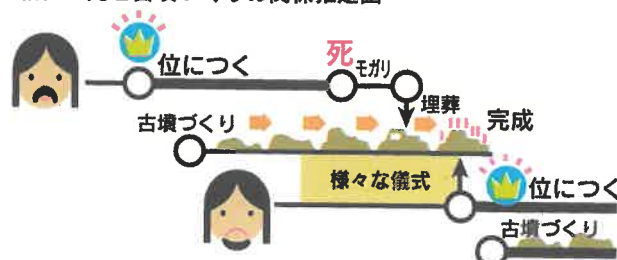


お富士山古墳の長持形石棺



- ・古墳造りには時間と労力がかかるので、王は生前から墓を造り始めた。
王が亡くなると古墳を完成させるのは新しい王で、古墳が完成を迎えると正式に新しい王が位についたようだ。

王の就任・死と古墳づくりの関係推定図



←王の就任・死と古墳造りの関係推定図

- ・工事には、発注者の王を頂点として、工事の総責任者（監督者）、技術者・職工、ムラビトが携わった。ヤマト王権より専門の工人を特別に派遣、巨石運搬などの技術指導も行っていた。

☆古墳が巨大化するの5世紀までで6世紀になると全国では急速に小型化、関東では大型前方後円墳が造られ続けた。

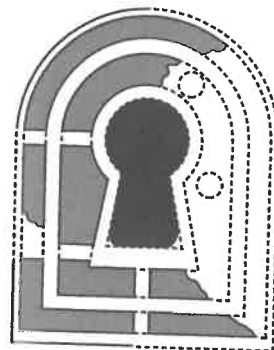
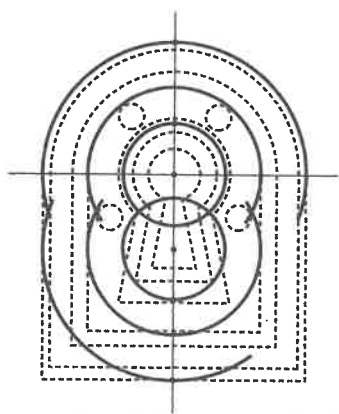
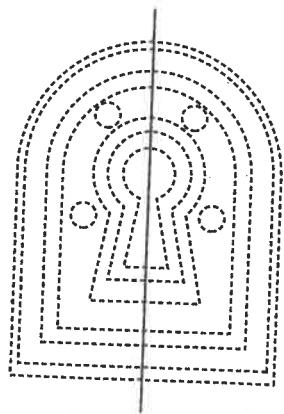
【古墳造りの順序】

参考：保渡田八幡塚古墳

1,古墳を作る場所を決める

2,古墳の形を設計する

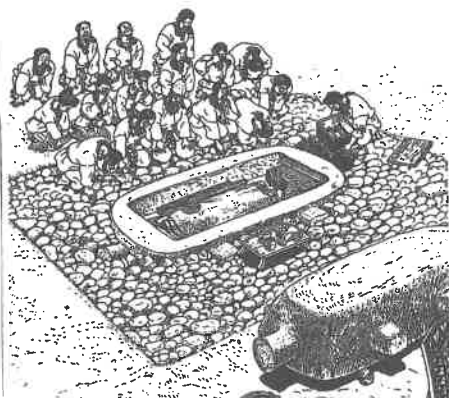
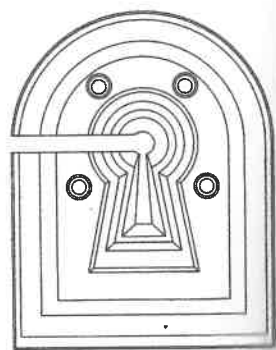
3,堀を掘り土を盛る



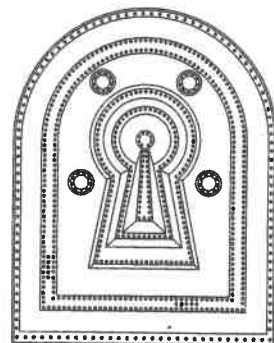
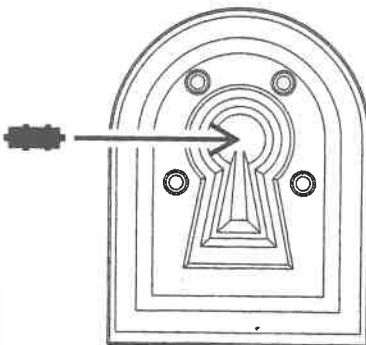
4,形を整え、石を葺く

5,石棺を運び入れ王を葬る

6,埴輪を並べる



(墳頂部に埋葬)



【工事費用等の推定算出】

※かみつけの里博物館「よみがえる五世紀の世界」より

保渡田八幡塚古墳（前方後円墳）	墳丘の長さ	96メートル
	全長	190メートル
工事に関わった人数	62000人	
工事費用	1000000000円（十億円）	
埴輪の数	6000本	
使われた石の数	398000個	
土の量	14500立方メートル（10トンダンプ1500台以上）	
工事日数	?????	



王

～感想とまとめ2～

以上の事柄から、古墳造りは多くの段階と時間、労働力、財力が必要であり、やはり途方もなく大変だったことが想像されます。また古墳を造るには、ヤマト王権からの古墳築造の許可、古墳は身分によって大きさが決まり、古墳の形、埋葬される棺のランク等、決められていたことから、ヤマト王権の技術協力というより、ヤマト王権が様々な「手綱を握っていた」のではないかと、という疑問も浮かんできました。技術者を派遣し、工事の進み方や工事費用も把握して、表向きは豪族に権威を与えつつ、豪族の反乱抑制も兼ねたものだったのではないだろうかと思うのです。大型古墳を築造したことで過剰な投資で資金が枯渇し、衰退のきっかけになった一族もあったのではないかと心配にすらなります。例えば、太田天神山古墳。調べる過程で、「1代限り」、という文字を目にしました。太田天神山古墳は、保渡田八幡塚古墳の約2倍のサイズであることから、工事費用の推定算出も2倍と考えたとしたら・・・他にも理由はあると思いますし、仮説の域を出ませんが、財力を大きく消耗するきっかけになったと言っても良いと思います。しかし、蝦夷にヤマト王権の影響力を見せ続ける必要性が、ヤマト王権として上毛野国に権威を与えつづけていたのが本当のところだと考えます。

6. 結論

「なぜ古墳は大きくなければならなかったか」のテーマに対して、感想とまとめ1・2から、政治面での蝦夷への牽制、ヤマト王権から豪族の貢献を認める形として「古墳が大きい必要があったから」という結論に至りました。一番は豪族個人ではなく、ヤマト王権として必要であった、という結論です。

東国文化の研究を通して、群馬の地域が重要な役割を担っていて、土地に住む豪族もその期待に応えられる実力を持っていたことが分かりました。また、ヤマト王権の政治力のすごさも分かりました。

7.感想

このテーマを掲げたとき、大型古墳を作ることは協力を強いられるムラビトにとって過酷だったのではないかと少し腹がたっていたのですが、調べていくうちにムラの長とムラビトの生活、信頼関係があったこと、古墳造りは農閑期に行われていたこと、労働中の食料支給など、少なからず利点もあったようで、批判的だった部分が和らぎました。古墳造りは無理して工期を早めても崩れやすくなるため、時間をかけてゆっくり造られていたことを知りました。

古墳を訪れ、外周を歩いて、墳丘を登り、墳丘からの景色を見ました。写真や動画では伝わってこない大きさを体感しました。あまりの暑さに汗だくになりました。

太田天神山古墳やお富士山古墳は、木々が生い茂って一つの山のようになり、ざらざらとした権力や富の誇示から解放されて自然に戻ったような感じがしました。それぞれ神社が祀られていて、おそらく被葬者とは関係のない神さまだから失礼な気もするけれど、古墳時代の人々の思いの場所が放置されずに大切にされていくのも悪い形ではないのかな、と感じました。古墳を含め、いつの時代の遺産も上書きされず、共にあればいいなと思いました。

古墳めぐりは楽しかったです。このような機会をいただき、ありがとうございました。

【参考資料】

- ・東国文化副読本 2023年改訂版
- ・よみがえる五世紀の世界 かみつけの里博物館常設展示解説書
- ・社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
- ・綿貫観音山古墳ガイドブック
- ・馬を育てた古墳時代の村の謎
- ・～裾野は長し赤城山～赤城山南麓の古墳
- ・太田市役所ホームページ
- ・伊勢崎市役所ホームページ
- ・高崎市役所ホームページ
- ・群馬県ホームページ
- ・高崎市文化財情報 <https://www.city.takasaki.gunma.jp/site/cultural-assets/3222.html>
- ・ウィキペディア 養老律令 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A4%8A%E8%80%81%E5%BE%8B%E4%BB%A4>
- ・<https://www.fuwaiin.com/kofun/kofun-soremici/gunma/hacimanzuka.html>
- ・WANDER 国宝 <https://wanderkokuho.com/201-10004/>
- ・We Love 群馬 https://we-love.gunma.jp/#google_vignette
- ・歴史人 <http://www.rekisiin.com> 「歴史人」4月号 古代史の謎
- ・コトバンク kotobank.jp 上野国

【資料館】

かみつけの里博物館、前橋市総社歴史資料館、
新田荘歴史資料館、群馬県立歴史博物館

